



「E-NEWS むらやま」で検索または 右記二次元コードから、バックナンバーも見ることができます。

学習指導要領の趣旨の実現に向けて

令和6年度山形県小・中学校教育課程研究協議会 A(地区別協議会)より

令和6年8月2日(金)に山形県小・中学校教育課程研究協議会 A を開催しました。今年度は、各教科部会の中で、教科の本質に迫る協議とすため、村山管内の各教科の課題から話合いの柱を設定したり、ブレイクアウトルーム機能を活用し少人数グループ編成をしたりする等、話し合う場の充実を図りました。参加された先生方からは、下記のような感想をいただきました。

<参加者の声から>

「理科の考え方を働かせる」場面を意識して授業づくりをしなければならぬことが分かりました。また、子どもが、実験や観察の結果に基づいた考察するために、自分事としてとらえられる工夫がしたいです。(小 理科部会)

子どもが自分で課題を立てることができるよう、教師は待つだけではなく意図的な働きかけをすることが大切だということを感じました。体験活動や資料の吟味をして、課題を立てられるように支援したいです。(小中 総合部会)

「考えの形成」を重視することが、主体的な力につながるという話を聞いて、自分の授業をさらに改善したいと感じました。教科の先生方と、どんな授業のどの場面で取り入れるのが良いか、時間のかけ方も含めて話合っていきたいと思います。(中 国語部会)

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、丁寧に教材研究を行い、単元のどの場面でどんな数学的活動を行うのか、また、ねらいは何かなど教師自身が明確に持つことが大切であると感じました。(算数部会)

言語活動をするを目的とするのではないことが分かりました。コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定しながら授業づくりを行っていきたくです。(外国語・外国語活動部会)

小中連携が大事であることが分かりました。小学校で大きくとらえた時代についての特色などを中学校で学ぶため、学習内容が重複しないように、中学校で歴史を学ぶ意味を再確認していきたくと思いました。(中 社会部会)

今回の研修をとおして理解を深めた、学習指導要領の趣旨や内容、グループ協議で話合った内容などについて、ぜひ校内や近隣の学校の先生方と共有していただき、授業改善にお役立てください。また、今回の協議会における全教科の動画資料等は、下記 URL 及び二次元コードでダウンロードできます。

<https://drive.google.com/drive/folders/15jDjmoDTv4d5iWXVWyq9GtwhWDTwADMk>



Murayama Young ボランティア スキルアップセミナー

< テーマ >

未来へのステップ~つなぐ ひらく 見つける~

令和6年度未来の参画者養成事業
期日：8月1日(木)・2日(金)
会場：山形県青年の家



今年度は上記のテーマの下、村山管内 14 校から 41 名の中学生が参加し、本セミナーを実施しました。各市町のボランティアサークルで活動している高校生や大学生をはじめ、一般公募の高校生、教育委員会担当者等を班付アドバイザーに迎え、学校や年代の枠を超えて、ボランティアの内容を一緒に考えました。考えた企画を保育施設や放課後児童クラブ、介護福祉施設で実践し、大変好評を得ることができました。以下は参加者の感想の抜粋です。

事前準備から当日まで、大変なこともあったけれど、班のみんなと協力できた。保育園で、子どもたちが笑顔で楽しそうなところを見られてとても嬉しかった。事前準備の時に、紙芝居や手遊びの練習、ペーパーアート作りなどを頑張って、すべてを出し切ることができて、本当によかった。(東根二中1年)



去年の経験を活かして計画を練ったり、行動したりすることができた。2度目の参加だったが、新たな改善点が見つかり、大切なことも学ぶことができた。なかなかこのような機会はないので、良い体験ができたと思う。(陵東中2年)



今回のボランティアを通して、いろんな力が身に付き、気づけたことがたくさんあった。相手を笑顔にしたり、相手の立場に立って考えたりする力が身に付いた。自分の持っている力を活かし、自分も楽しみながら人の役に立つことができ、いい体験ができた。(天童一中3年)



普段とは違う高齢者施設での発表や会話を成り立たせることは難しく、緊張した。そして、同世代とは違う人生の大先輩と会話をするのではないので話題に困ったりもしたが、臨機応変に対応し、とても楽しく活動することができた。(山形七中2年)



活動の中で企画を立てる際、一人一人の意見が合わさって1つの企画が決まった時に、班の気持ちも1つにまとまった気がして、とても嬉しかった。高校生1人で班をまとめることは大変だったが、その分、自信や達成感があり、成長できた。これからも積極的に外部活動に参加していきたい。(山形北高校2年)



この2日間で、目標であった「自分から積極的に行動する」ことを達成できたように感じる。人のために考え、人のために行動することは楽しかった。最後に児童から、「また来てね。」と言われてもらって、成果も感じ、充実した2日間になった。(楯岡中3年)



様々な方とつながり、自分をひらき、道を拓き、自分の新たな一面や未来への道を見つけるステップを踏み出すことができた2日間でした。参加した皆さんが、今後も地域や学校で活躍していくことを願っています。

令和6年度 幼児教育の理解・発展推進事業 山形県幼児教育研究協議会 ~ 令和6年7月26日(金) ~

村山管内の幼稚園、認定こども園、保育所等をはじめ、小学校、中学校、特別支援学校、保育行政、教育委員会から、計132名の方々に参集いただき、日々の指導改善や幼児教育の充実について活発な意見交換が行われました。

演題「学びに向かう力、人間性等」を育む環境構成の在り方

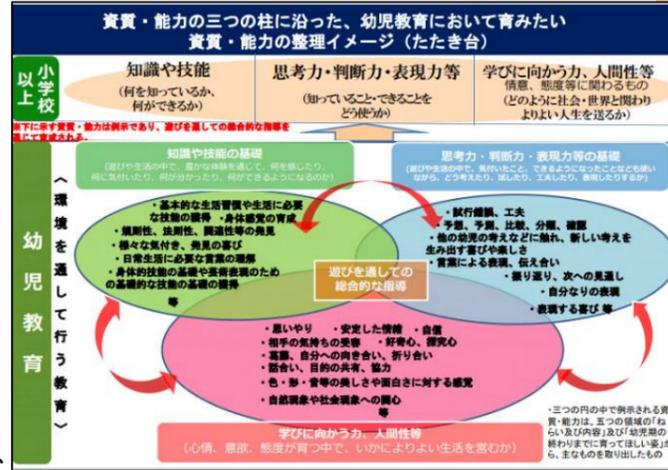


宮城学院女子大学
教育学部教育学科
教授 磯部 裕子氏

子どもにこれからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を育むためには、本来、自由であるという遊びの本質に立ち返ることが重要です。また保育者が環境に出逢い、関わっている子どもの姿から願いや思いを読み取り、『今ここ!』というタイミングで援助することが大切です。

講演では、近くの小川で魚と出会った子どもが、身近な環境と関わる中で、「やりたい」「知りたい」という思いを膨らませ、次々と遊びを発展させていく事例を紹介いただきました。

この事例では、魚を捕まえるしかけや大きさの異なる水槽を準備したり、魚に関わる書籍コーナーや詳しい人から話を聞ける機会を設けたりと、子どもの姿から願いや思いを読み取って環境を構成する保育者の在り方について教えていただきました。そして、子どもの「やりたい」「知りたい」という好奇心や探究心を刺激するような効果的な環境構成にするには、子どもの願いや思いを大切にすること、幼保小中の先生方と学び合うことができました。



H28.3.30 文部科学省 教育課程部 幼児教育部 配布資料4 より

講演の感想

- ★子どもが持っている「やってみよう」という好奇心に気づき、環境を準備したり、多面的に幼児を理解する為に、子どもの姿から学んだりする姿勢を大切にしていきたい。(幼稚園教諭)
- ★指示通りに動ける子どもを育てるのではなく、子ども主体の遊びの中で子どもが自己選択し、自己決定していける環境を整えていきたい。(保育教諭)
- ★磯部先生が、幼児教育の弱みかもしれないとおっしゃっていた教材研究については、小学校でも同じことが言えると思います。子どもたちが主体的・意欲的に学ぶために、各教科の単元でつきたい力を明確にし、単元を通して育成していきたいと感じます。(小学校教諭)

<第1分科会> 金井幼稚園の実践発表

主体的な遊びが、小学校以降の主体的な学びにつながるという「連続性」を意識した保育実践や公開保育における小学校との連携について

【参加者からの声】

幼保小の連携にアプローチするには、まずは自分の保育の質の向上を図ること、それを同僚と共有することが大切だと思いました。

<第2分科会> ひかり幼稚園認定こども園の実践発表

「10の姿」を意識した保育実践および、幼小の先生方が保育参観や授業参観等で「子どもの育ち」についての共通理解を図った実践について

【参加者からの声】

互いの現状を理解し、交流のする時間の確保や先生同士の話し合いを通して、先生方が意識を高めていく必要性を感じました。

すべての子どもたちに「本」と触れ合う楽しさを ~こんな読書活動もあっていい!~

7月3日(水)にサハトベに花(河北町)で第1回村山地区子どもの読書活動推進研修会を開催しました。子どもたちの読書活動を支援する様々な職種の方々から参加をいただき、研修を深めました。講師にラーワチひろ氏(絵本作家)を迎え、絵本作りで気をつけていることや子どもたちとの関わり方への思いなどをお話いただきました。さらに、参加者同士で「私のおすすめの一冊」やこれから取り組みたい様々な読書活動について、活発な情報交換が行われました。



- 【参加者の声】
- ・普段生活をする中で、絵本を読んであげる時間の確保はなかなか難しいと感じています。その中でも電子書籍や移動図書館車の活用は、子どもたちにも影響があるのではないかと考えています。
 - ・他のボランティアの活動状況や方法を知ることができて、今後に生かしていきたいと思いました。絵本作りにあたって、その様子やインスピレーションを聞くことはなかなかできないので、絵本作家さんのお話を聞いておもしろかったです。
 - ・読書習慣は家庭から。どう大人に読書の良さを認識してもらえるか、子どもの興味や発達をよく見極めた上で本を選ぶことが大切だと感じました。

【お知らせ】 令和7年1月に、第2回研修会の開催も予定しておりますので、ぜひ御参加ください。

第51回日独スポーツ少年団同時交流受入事業 山形県プログラム 東南村山地区3市2町で開催

7月26日(金)~30日(火)の5日間、ドイツのスポーツ少年団のグループリーダーと団員の8名が山形市、上山市、天童市、山辺町、中山町で様々な交流を行いました。上山市の市長表敬訪問をはじめ、各市町の特徴を活かしたプログラムを提供いただきました。

また、東南村山地区在住の7家庭にホストファミリーとしてホームステイを受け入れていただきました。互いに始まる前は上手くコミュニケーションが取れるか不安に思っていたようですが、5日間でのどの家庭も、とても良い関係を築き、プログラムが終わって次の訪問先へ向かうバスに乗り込む際には、大変名残惜しそうにしていました。



上山市 市長表敬訪問

山辺町 初体験の蕎麦

中山町 浴衣でお茶体験

天童市 書き駒体験

山形市 剣道体験

ホストファミリーとのお別れ